



# 通信

HP 学校だより  
R6.2.8  
NO.38  
文責 伊藤美佳



## 自分たちで 考えて行動

代表委員会主催の「トヨサカ大爆笑グランプリ」前半の部が7日（水）に開催されました。9日（金）には後半の部が開催されます。

前半の部では、多くの観客の前で、マイクを上手にを使って生き生きと漫才やコントを披露する子どもたちの姿を見ることができました。たくさんの笑いと温かい拍手をもらい、出演した子どもたちはとても誇らしげでした。

さて、代表委員会の子どもたちは、この会の運営をしたことによって、どんなことを得られるのだろうか、意義は何だろうかと考えてみました。

2学期末に実施を決めてから本番に至るまで、自分たちで計画をし、その計画に沿って進めてきました。計画をたてる時は、6年生の4人が「中間発表必要だよ。去年、6年生が教えてくれたり、アドバイスをくれたりしたよ」とか「リハーサルは必要だよ」とか、経験をもとに話し合っていました。このように本番までの計画を立てることは段取り力＝プログラミング的思考を必要とします。計画が出来たら、それにそって実施していきます。しかし、予想しなかった出来事がいくつも起きます。例えば、出演者を集めようとしたら欠席だったなど。子どもたちは、本番というゴールに向けて、最善策を考えます。別の日に集める、いる子だけでも来てもらう…。どれが答えかは分かりませんが、その時にみんな考えを出し合っただけでもより良い方法で対応します。これが、今後、子どもたちの人生の中で必要とされる大切な力であることを確信しています。また、本番でも、突然マイクの音が不明瞭になったり、出演者が遅れてきたりと様々な問題がおきます。そういった問題に対して、自分で考え、臨機応変に対応するそんな豊坂っ子の姿を代表委員会の子どもたちが見せてくれました。経験を重ねてもっともっと頼もしくなってくれることを期待したいです。会の最後に、司会の子が「出演者のみんなに大きな拍手をお願いします」と言い、みんなが敬意を表したところは、心が温かくなりました。

## 授業参観ありがとうございました

5日（月）に行った授業参観後、保護者のみなさんへ内灘町への募金をお願いするために、代表委員会の子どもたちが各玄関に立って呼びかけました。保護者の方が足を止めて募金をしてくださるたびに、代表委員会の子どもたちが笑顔で「ありがとうございます」と言っている姿に心温まりました。授業参観で保護者のみなさんからいただいた募金の総額は、53,140円となりました。ご協力ありがとうございました。

6日（火）には、代表委員会の6年生児童と幸田町教育委員会へ募金を届けてきました。子どもたちは、「少しでも大変な思いをされている内灘町の人のお助けになればと思って募金しました。使ってもらえると嬉しいです。」と教育長さんに直接募金をお渡しすることができました。教育長さんから豊坂小学校の皆さんにお礼を伝えてほしいと言われ、「はい」と大きな声で誇らしげに答えていた代表委員会の子どもたちでした。

2月6日までの募金総額

148,557円

